

発達障害児に対する地域の役割と教育・発達サポート室の現況について

小児科内科三好医院
徳島大学大学院小児医学
宮崎雅仁

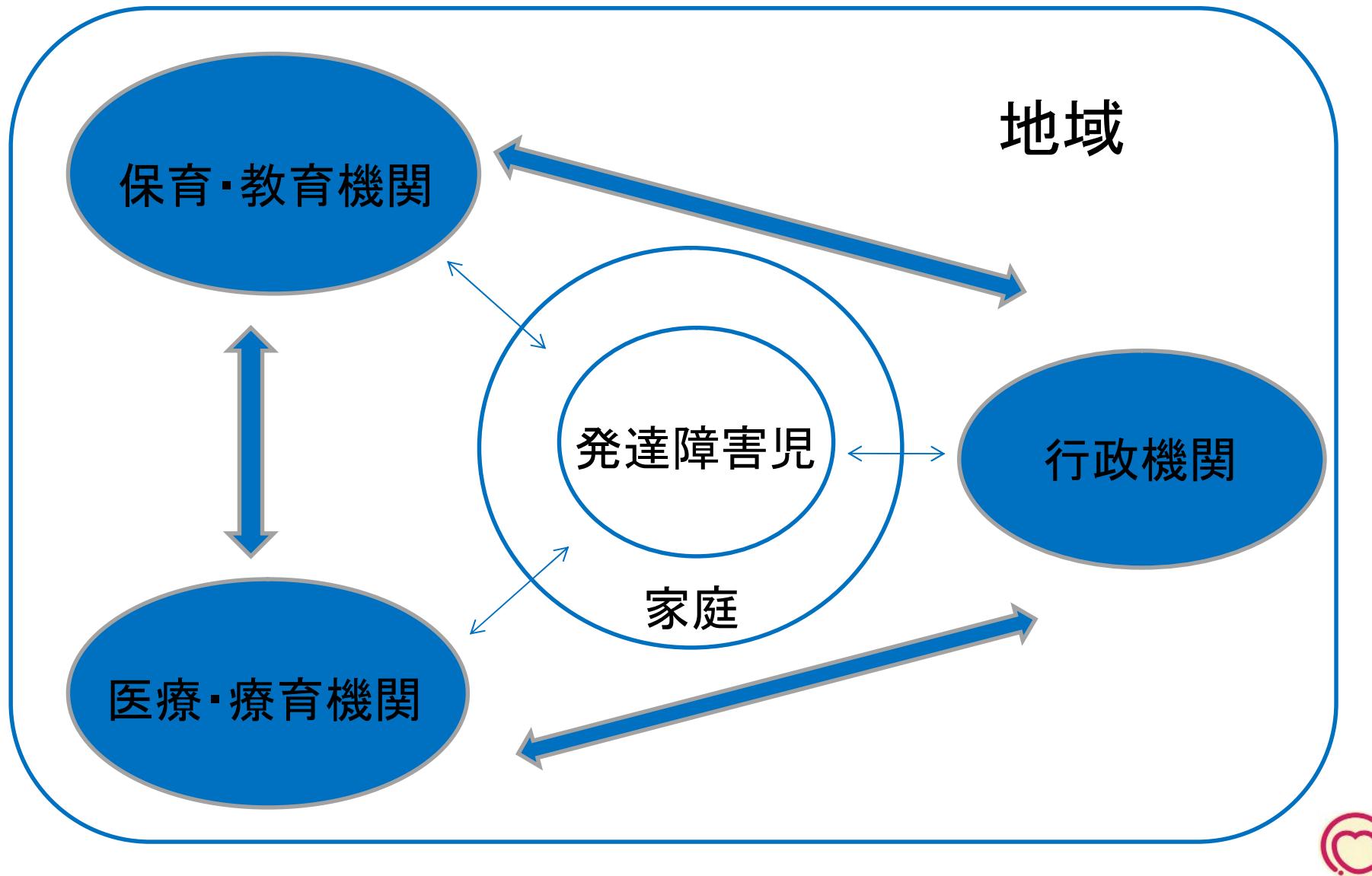


5歳児健診(発達障害児支援)
ネットワーク会議(平成21年2月
25日)

M.Miyazaki, MD, PhD



発達障害児に対する連携ネットワーク



●発達障害児を地域で支えるためのファースト・ステップは、地域住民が障害に対する正確な知識と理解を持つ事である。



発達障害

MBD ⇒
微細脳機能
障害

- ① 対人障害⇒高機能広汎性発達障害
- ② 行動障害⇒注意欠陥多動性障害
- ③ 認知障害⇒学習障害(読字、書字、計算障害)
- ④ 不随意運動⇒慢性チック障害
- ⑤ 運動障害⇒発達性協調運動障害
- ⑥ 全般的知能障害⇒軽度精神遅滞



発達障害

- ① 知能検査からは比較的軽度と考えられる、即ち一般的知的能力が軽度低下・境界以上である、発達障害の一群を示す。
- ② しかし、その疾患特異性より学校・社会生活を営む上で色々な問題を生じ易い。
- ③ 例えば、児童虐待、不登校、いじめの原因にもなっている。
- ④ 疫学調査・研究結果より、普通学級に通っている子供の5%程度がこの範疇に属すると推測されている。



発達障害(補足説明)

- ⑤ その病態 자체が疾患と認識されるものではない。
- ⑥ 社会が存在する事で規定される障害・概念である。
- ⑦ 即ち、定型的発達児(健常児)に比較して社会との相互関係の中で様々な心理・行動面の問題を容易に生じやすいリスクを有する。
- ⑧ その意味で社会からの充分な理解と配慮を必要とする社会的に不利な正常とは言い難い個性(障害)である。



発達障害児の理解できない言動・行動

例:HFPDD:慣用句が理解できない。

- 「時間があったので市役所まで足を伸ばした。」
⇒「そんな長い足は有るはずがない。」
- 「あなたの事で頭が痛い。」
⇒「病院に行ったら？」
- 「お父さんは顔が広い。」
⇒「お母さんも同じくらいの大きさだ。」



HFPDD:社会の理解の必要性

- 発達障害の子どもは、自然に対人関係や社会性のスキルを身に付ける事は困難
- これらのスキルを身に付ける手段としてSSTが存在する。



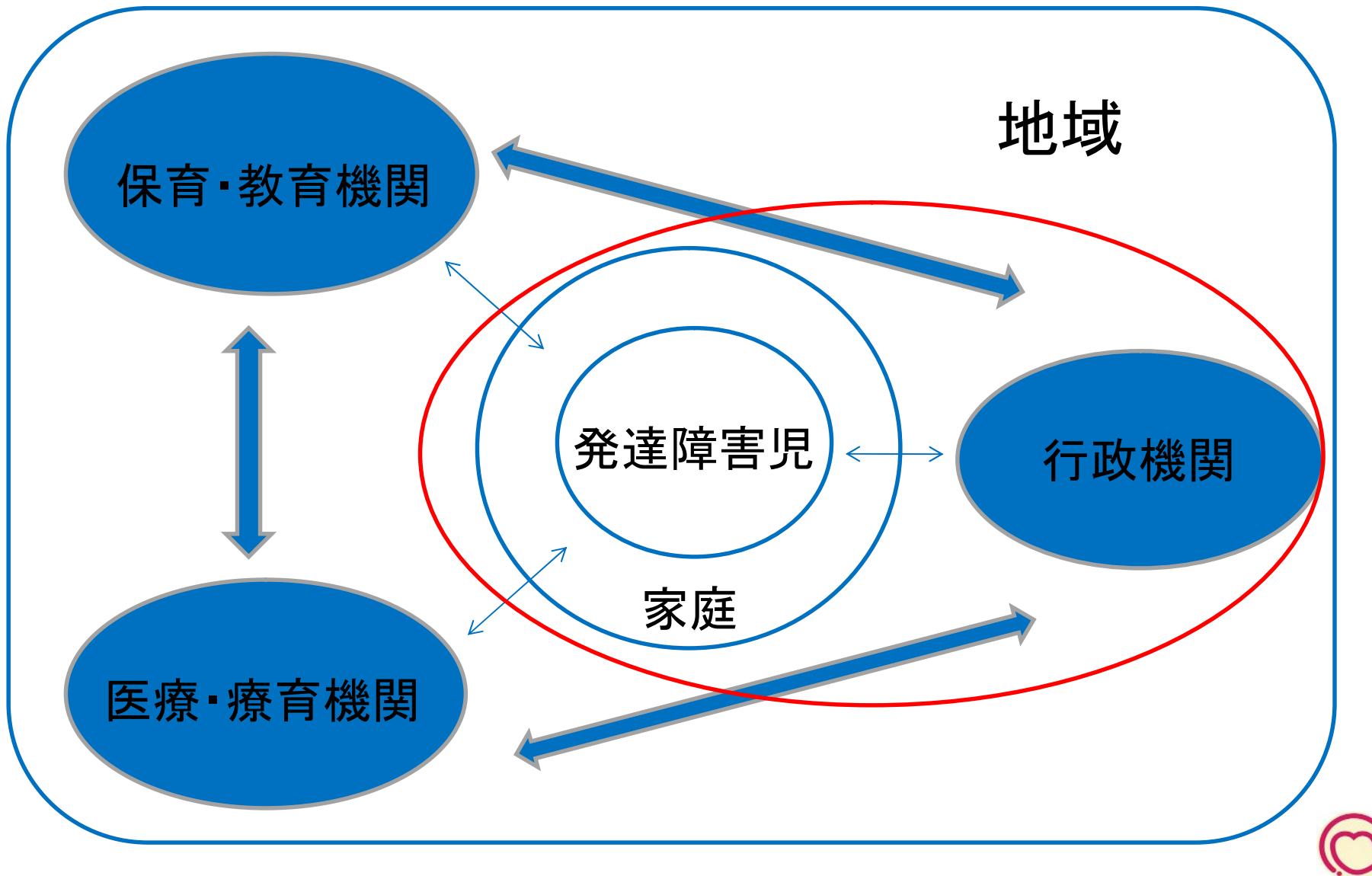
- 例えば鉄棒の逆上がりを殆ど練習なしに出来る子どもも存在するし、放課後・自宅で練習が必要な子どもも存在する。



- 周囲が支えながらトレーニングする必要あり



発達障害児に対する連携ネットワーク



発達障害児に対する行政の役割

- 発達障害児本人および家族に対するサポート・システムの確立
 - ✓ 早期発見・早期介入システムの構築
 - ✓ 家族に対する相談システムの構築
- 地域住民に対する啓蒙活動
 - ✓ 講演会、研修会の開催
 - ✓ 広報活動の充実



発達障害の早期発見のシステム

- それぞれの地域・自治体の現状にあつたシステムの選択が必要

- ① 人口規模
- ② 専門職(医療職・福祉職・教職・その他)集団のマンパワー
- ③ 療育施設等のフォロー機関の充実度



- ① 市町村による発達相談事業
- ② 幼稚園・保育園への専門家による視察・巡回相談事業
- ③ 充実した3歳児・就学時健診事業
- ④ 5歳児健診事業



東かがわ市・5歳児健診事業(平成17-19年度)

:特に要医療児の支援体制について

東かがわ市福祉課
子ども・健康課
教育委員会
白鳥園綜合療育センター
小児科内科三好医院

四国新聞・朝刊(2006年7月27日)



背景・目的

- ① 香川県東かがわ市では平成17年度より5歳児健診モデル事業、18年度より全市的な健診事業を実施している。
- ② その実効性を検証するために3年間の事業実績および健診後の支援状況について検討した。

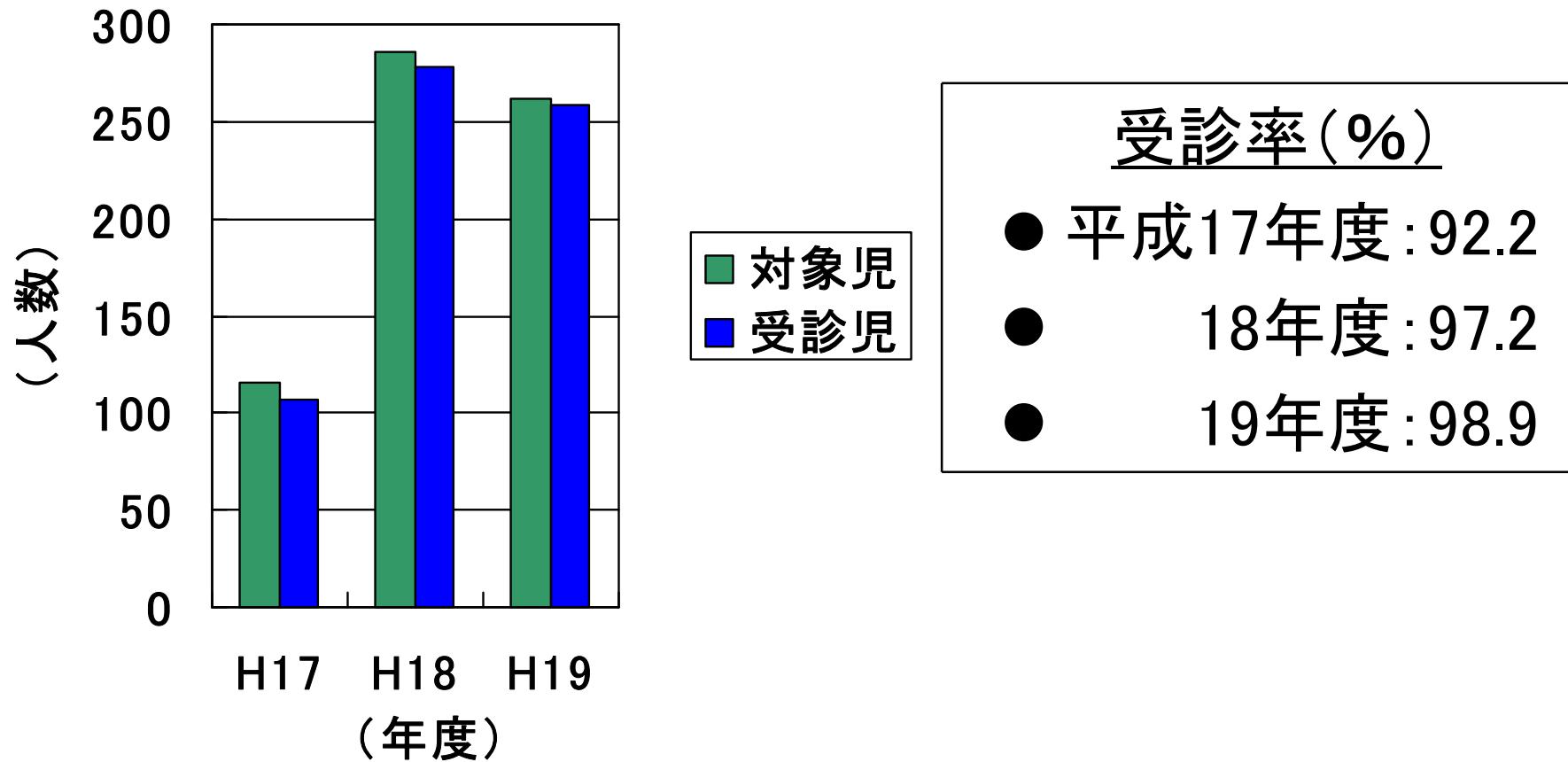


結果

- ① 3年間の対象児664名中644名が受診し、その受診率は97.0%であった。
- ② 成長・発達判定会議で経過観察が必要とされた園児は135名(21.0%)であった。
- ③ 受診児664名中39名(5.9%)が要医療と判定された。

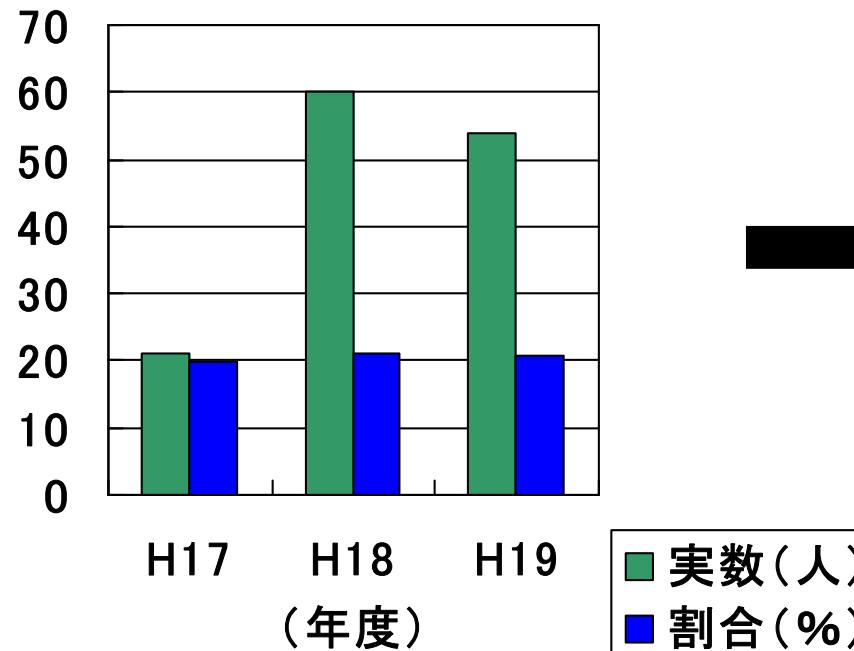


受診状況

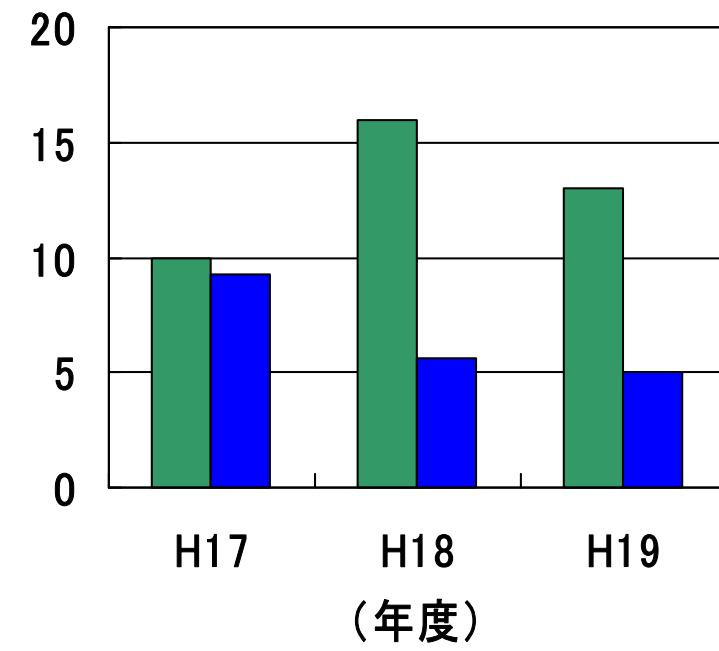


要觀察・要医療児

要觀察児



要医療児

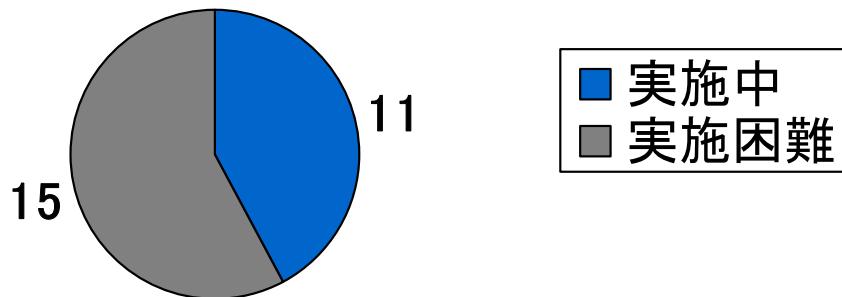


平成17-18年度・要医療児26名の 支援・就学状況

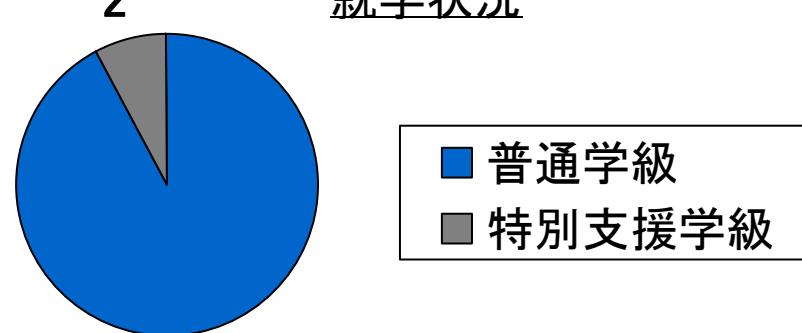
要医療児の支援システム

- ① 第1段階として市内総合療育センター・スタッフによる教育・発達相談
- ② その必要性に応じて市内・外の医療・療育機関への受診を勧奨

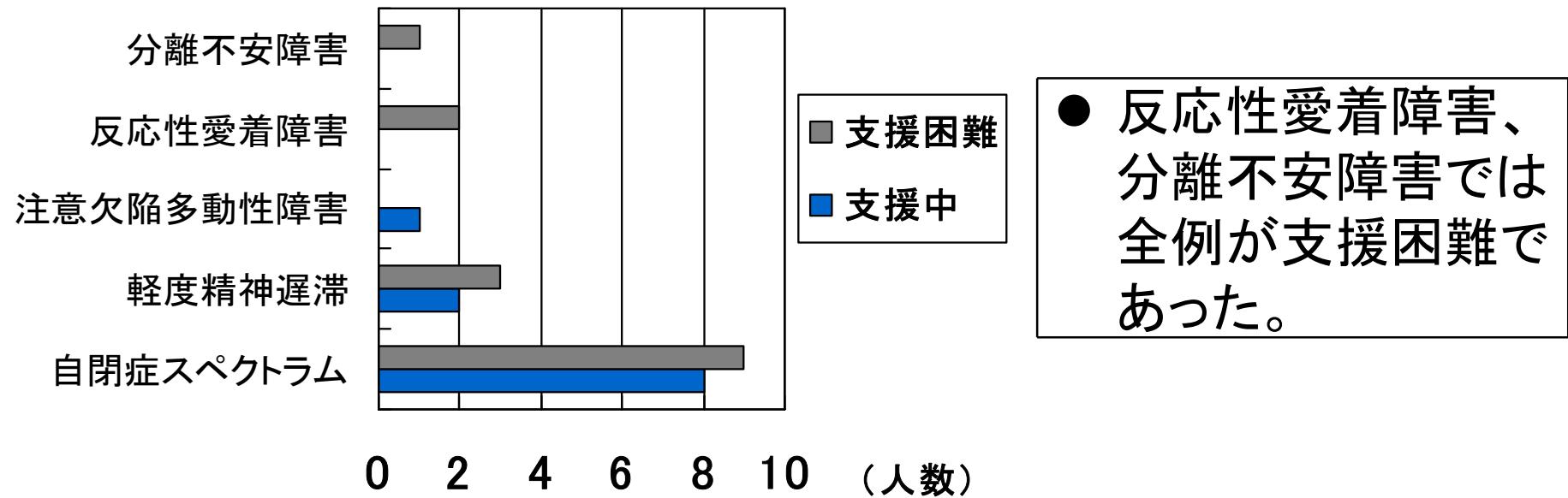
支援状況



就学状況



平成17-18年度・要医療児26名の 障害別・支援状況



- 早期介入・困難児15名の理由

- ① 障害に対する未認識(7名)
- ② 認識はあるが療育機関での指導・療育トレーニングへの強い抵抗感・拒否(8名)



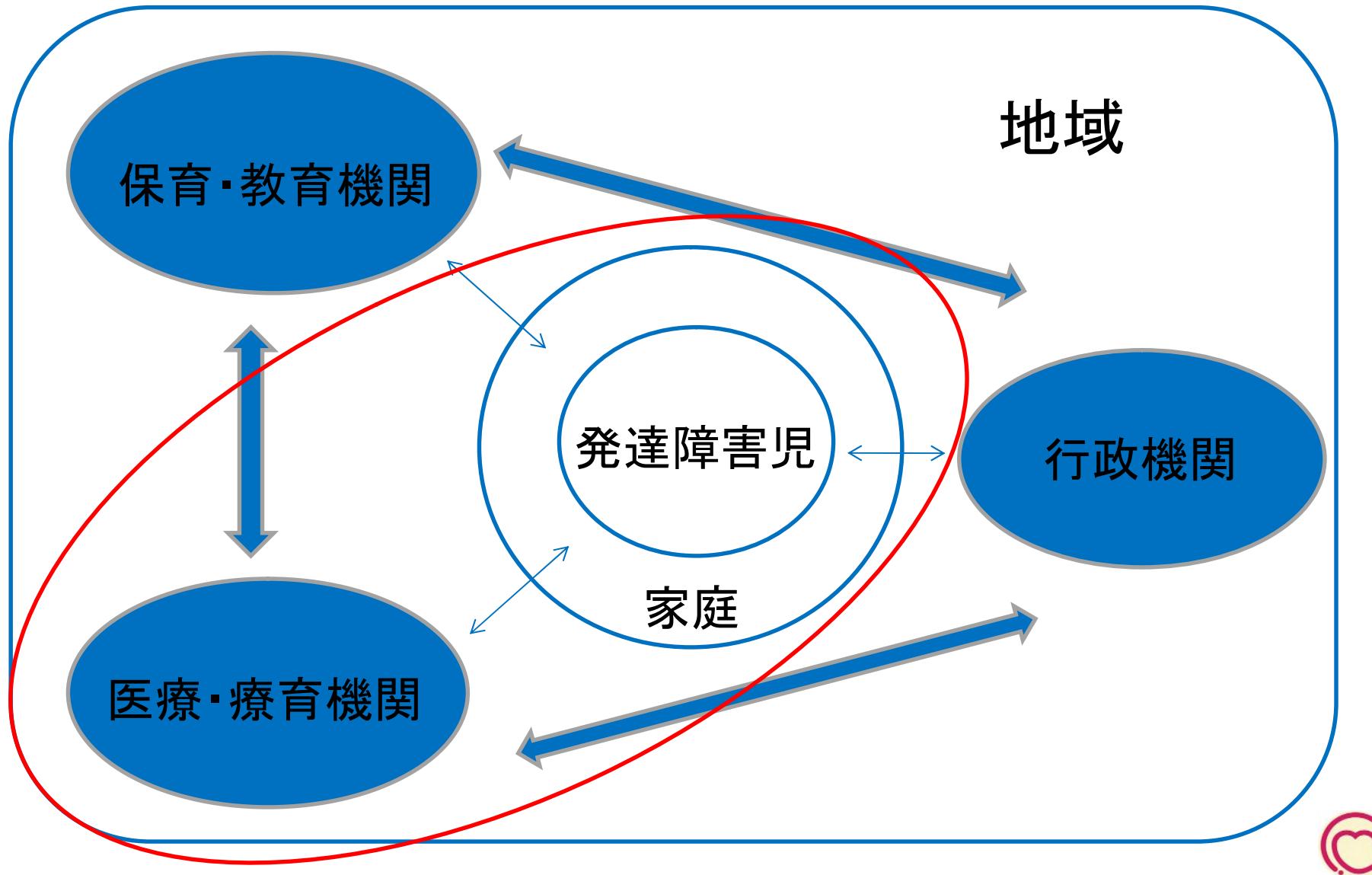
- 小児科診療所併設の小規模子育て支援施設

1F: 病(後)児保育室

2F: 教育・発達サポート室



発達障害児に対する連携ネットワーク



医療・療育機関と地域の連携

① 地域に出向する支援活動

- ・ 保育・教育場面の観察と話し合い
- ・ 研修会を通じた啓蒙活動
- ・ 地域における支援システム構築

② ケースに関する相談活動

- ・ ケース会議への参加・助言



地域連携からみた教育・発達サポート室

① 相談事業

- 5歳児健診・要医療児の保護者に対する気付きの場としての相談
- その他の保護者・保育・教育関係者からの相談

② 発達障害児の障害特性把握のための知能検査

③ 既に施設で療育中の発達障害児の診察会

④ 療育トレーニングの導入



小児科 内科
三好医院

powered by My Clinic

皆様のすこやかな毎日のために

お子様を中心地域の皆様に信頼される医療を提供することを目標としてあります。また、乳幼児健診や病(後)児保育事業も行っております。お気軽にご相談、ご来院ください。



topic トピックス

■2月の診療日に関するお知らせ
2月8日(日)は当番医のため、午後5時まで診療を行なっています。
2月25日(水)は第4水曜日のため、午前中の診療を行なっています(尚、第2水曜日・2月11日は建国記念日のために休日です)。

■お知らせに「子どもに優しい嘔吐下痢症の治療:経口補液療法(ORT)」について掲載しました。

Clinic outline 当院概略

トップページ
お知らせ
医師のご紹介
当院のご案内
交通案内
リンク集

チャイルド・ケアシステム・エム
1階・病(後)児保育室
2階・教育発達サポート室

院長の趣味…
私の趣味である【城郭巡り】について少し…

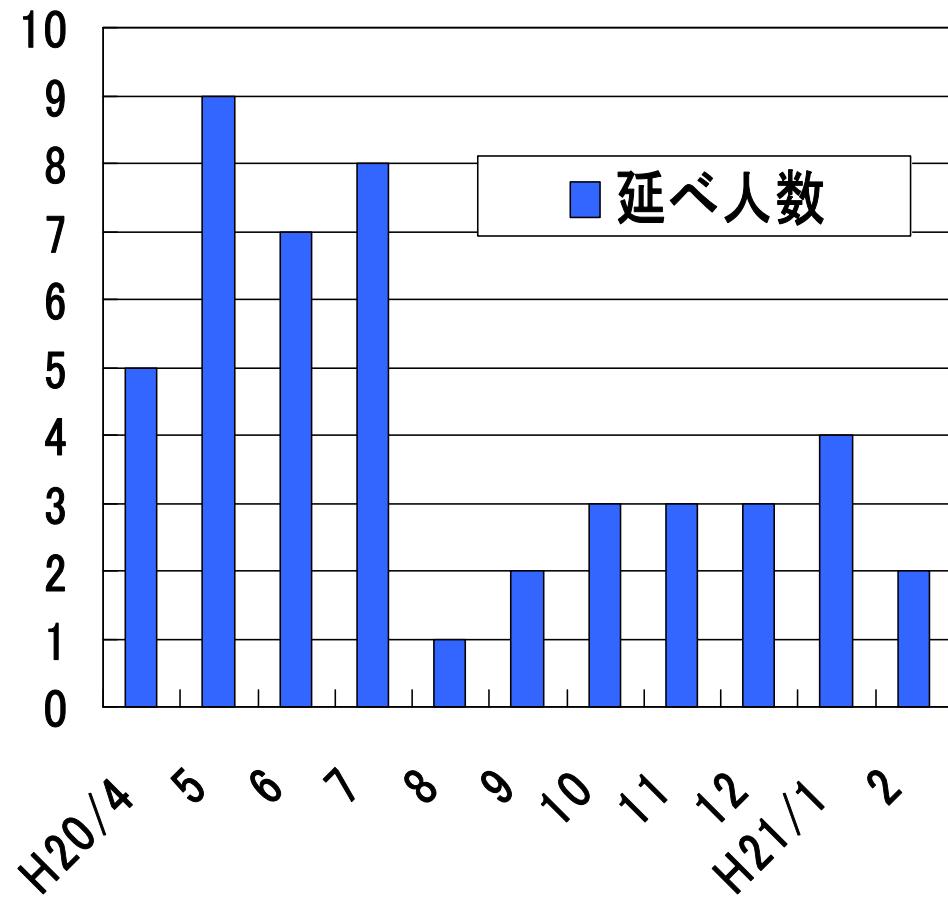
講演会メモ
院長の最近の講演内容をPDFファイルで提示しています(尚スライドは転用禁です)



http://www.myclinic.ne.jp/miyoshi_clin/



利用状況①



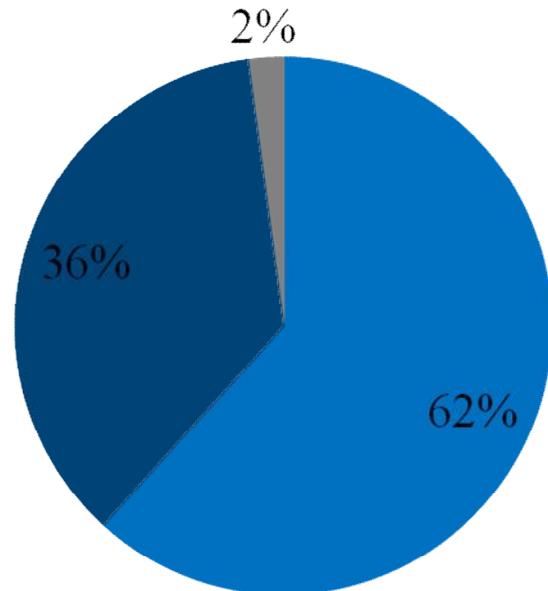
- 平成20年4月開設より延べ47名が利用



利用状況②

居住地

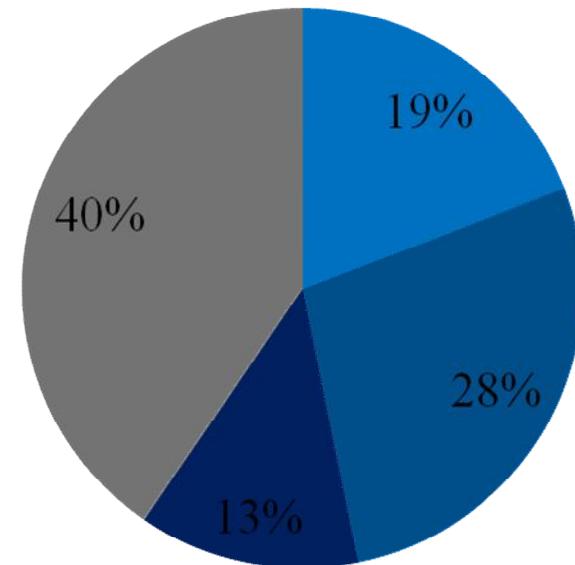
■ 東かがわ市 ■ さぬき市 ■ その他



利用内容

■ 相談事業
■ 訓練

■ 知能検査
■ 診察会・その他



今後の課題

- 対象児の拡大
 - 大川地区以外の発達障害児の相談
- 利用内容の追加
 - 育成センター関連の教育相談の追加
- 導入された療育トレーニングの継続



発達障害児に本当に必要な事

- ① 一人で全てが出来る事ではない。
- ② 自分自身が苦手な事象を熟知し、それをうまく処理する手段(何を使えば良いか？誰に尋ねれば良いか？)を理解している。
- ③ また、実際にその手段を実行に移す事が可能であり、かつ回りのサポート体制も充分に出来ている。





御清聴ありがとうございました。

